



TERTIO MILLENNIO ADVENIENTE

使徒書簡

「来たるべき紀元二千年」

(仮題)

司教、司祭、助祭、男女の修道者、そして全信徒の皆さんへ。

1 西暦二千年という新たな時代を迎えるに当たり、聖パウロの「時満ちて女から生まれさせたみ子を神は遣わされた」(ガラツィア4・4)という言葉が思い起こされます。時が満ちるとは、みことば、すなわち御父と等しい御子が人となられた託身の秘義、そして世の贖いの秘義を指しています。聖パウロは神の御子が女から、律法の下に生まれ、律法の下にある者を贖い、神の養子とすることを強調します。さらに「あなたがたが神の子である証拠は、「アッパ、父よ」と叫ぶみ子の霊を神が私たちの心に遣わされたことである」(同4・6)と加

えていきます。結論は喜ばしいものです。「だからあなたはもはや奴隷ではなく子である。子であればまた神によって世継ぎである。」(4・6、7)

2 託身の秘義に関するパウロの説明は、三位一体の秘義及び聖霊を通して続けられる御子の使命にも及んでいます。神の子の託身、その懐胎と誕生は聖霊を派遣するための前提条件でした。聖パウロの言葉は、贖いにつながる託身の秘義を余す所なく示しています。ルカの福音書には、イエズスの誕生をめぐる状況が簡潔に描かれています。(ルカ2・1、3、7) 大天使ガブリエルがナザレトの処女に告げたことが、こうして実現したのです。「ごあいさつします(よろこびなさい)、恩

寵に満ちた御方。主はあなたと共においでになります。」(ルカ1・28) 最初は心乱れたマリヤでしたが、天使の説明を聞き終えると、ためらわず「私は主のはしためです。あなたのお言葉のとおりになりますように」(1・38)と答えました。人類史上、これほど一人の人間の同意に全てがかかっていた例はかつてありません。

3 ヨハネ福音書の冒頭には、託身の秘義の全容が一文で記されています。「みことばは肉体となつて、私たちのうちに住まわれた。私たちはその栄光を見よれば、御父と等しい永遠のみことばの託身は、イエズスの懐胎と誕生と共に行われたのです。時満ちて、永遠のみことばが被造物の制約を身に帯びて来られたという事実は、二千年前のベトレヘムの出来事に独自で無限の価値を与えています。みことばによって、被造物の世界は秩序ある宇宙となりました。同じみことばが肉体となつて、被造界の秩序を新たにします。エフエゾ人への手紙

は、神がキリストにおいて立てられた計画をこう語ります。「それは時満ちれば実現するものであり、天にあるもの地にあるものをキリストの下に集めるという奥義であった。」(1・9、10)

4 世の贖い主キリストは、神と人間との間の唯一の仲介者であり、この世において私たちの救われる名は他にはありません。(使徒行録4・12参照) (…) 御父と等しい御子キリストは、神の計画を全被造物、とりわけ人間に啓示する方です。第二バチカン公会議は印象的な言葉で述べています。キリストは「人間を人間自身に完全に示し、人間の高貴な召命を明らかにする」(現代世界憲章22番)と。キリストは御父とその愛の秘義を明らかにすることにより、私たちへの召命を示されます。かつて罪に歪められていたアダムの子らを、見えない神の似姿として再び神に似たものに戻してください。人間としての本性を保ちつつも全ての罪から解放され、みことばである神のペルソナを持つておられたキリストは、自ら人類と分かち持たれたその人間性を至高の尊厳にまで高めました。「神の子は受肉によって、ある意味で自分自身を全ての人間と一致させた。キリストは人間の手をもつて働き、人間の知性をもつて考え、人間の意志をもつて行動し、人間の心をもつて愛した。彼は処女マリヤから生まれ、罪

を除いてはすべてにおいてわれわれと同じであった。」(同)

5 神の御子が「われわれの一人となつてくださった」この出来事は、全く人目を引くことなく起こつたため、同時代の歴史家たちはほとんど気づきませんでした。(…)

しかし、歴史家の重視しなかつた大いなる出来事は、新約聖書の中で余すところなくその重要性を発揮しています。新約聖書は信仰の書ではありませんが、全体的に見て、歴史の証言として信頼性に欠けることはありません。キリストは真の神・真の人、宇宙の主にして歴史の主、「アルファでありオメガであり、初めであり終りである」(黙示録21・6、1・8)方です。キリストにおいて、神は人類とその歴史に関する決定を語られます。ヘブライ人への手紙で力強く簡潔に描かれた通りです。「神は何度もいろいろな方法で、その昔預言者を通じて先祖に語られたが、この終りの日々には…その子を通じて語られた。」(1・1、2)

6 イエズスは預言者たちが常に語ってきたアブラハムとの約束の成就として、選ばれた民の間に生まれました。旧約聖書の主旨は、要するに宇宙の贖い主キリストとその救いの王国の到来を準備し、宣言するところにあつたのです。こうして旧約の諸書は、神の注



Libreria Editrice Vaticana, Città del Vaticanoの転載許可済 © 1995 発行所 財団法人 精道教育促進協会 〒659 兵庫県芦屋市船戸町1-2-6 TEL.0797-31-3452・FAX.0797-31-3448

人となっています。神の教育は、キリストにおいて完成します。イエズスは預言者たちのように「神の名によって」語るのみならず、自身が人となった永遠のみことばである神として語りました。これこそがキリスト教と他のあらゆる宗教、大昔から続けられてきた神への探求とを分かち相違点なのです。キリスト教の出発点はみことばの託身です。すなわち、人間が神を探すべきでなく、神ご自身が人間に近づいて話しかけ、神に至る道を示されるのです。ヨハネ福音書の冒頭にあるように、「神を見た人は一人もない。御父のみとこころにまします御独り子の神がこれを示された。」(1・18) 託身したみことばは人類のあらゆる宗教の内にある熱望をかなえます。神ご自身が、人類の全ての期待を上回ってかなえてくださるのです。これが恩寵の秘義です。

キリストにおいては、宗教はもはや盲目的に「神を探り求める」(使徒17・27)ことではなく、ご自身を啓示される神への信仰の応答です。人間は自らの創造主・父である神に向かって話しかけます。みことばである一人の人の力によらなければできない応答です。神はその人を通じて個々の人間にお話しになり、人間はその人を通じて神に答えることができます。さらに、全被造物がこの人によつて神に應えることができるのです。イエズス・キリストは全てのものの新たな始まりです。キリ

ストにおいて、万物は自らと出会います。自らの本源である創造主に出会い、戻るのであります。こうしてキリストは世界のあらゆる宗教の念願を成就し、いわば唯一にして最後の完成者となっています。神がキリストにおいて自ら人間に語りかけるのと同様、全人類と全被造物はキリストにおいて神に話しかけます。まさしく、神に自らを明け渡すのです。万物はこうしてその源に帰ります。イエズス・キリストは万物を総括する(エフェゾ1・10参照)と同時に、全てを神において完成させます。イエズス・キリストに拠つて立つ宗教は、栄光の宗教です。神の栄光の誉れ(同1・12参照)という新しい生き方を示してくれます。実に被造物は皆、神の栄光の現れなのです。中でも生きる人間は神の栄光の顕現であり、神における完成を目指して生きるよう招かれています。

7

イエズス・キリストを通して、神は人間に話しかければかりでなく、人間を探しに来られます。御子の託身は、神が人を探しに来られることの証拠です。これをイエズスは、見失った羊を探しだすたとえ話(ルカ15・1〜7)として話されました。捜索は神の心の中から始まり、みことばの託身で頂点に達します。ご自分の似姿として造られた人間を神が探しに来てくださるのは、みことばにおいて永遠に人間を愛しておられるから、キリストにおいて人

間を神の養子の尊厳にまで高めたいと望んでおられるからです。そこで神は、他のいかなる被造物とも違った方法でご自分の特別な所有である人間を、探しに行かれます。人間は愛によって選びだされた神の所有です。神は父の情に駆られて人間をお探しになります。なぜ神が人間を探されるのでしょうか？人間が神から離れ、人祖アダムのように身を隠し、神の敵に散らされるがままとなってしまったからです。悪魔は人間をそのかし、神の意志よりも人間自身の意志を優先させるよう教えます。(創世3・5参照)御子を通じて人間をお探しになる神は、人間がますます神から遠ざかる悪の道捨てようお望みです。「悪の道捨てさせる」とは、間違つた道をたどっていることを理解させること、歴史の至る所に見い出

される悪に打ち勝つことです。これこそが「贖い」の意味する所です。贖いは人間の罪の負債を償ったキリストのいけにえによつてもたらされ、神との和解が成立しました。神の御子は人となり、処女マリアの胎内で人間の体と魂を得ました。だからこそ完全な償いとなつたのです。託身を説く宗教は、罪と悪と死そのものに打ち勝つキリストのいけにえによる、世の贖いの宗教です。十字架の死を受け入れたキリストは、同時に生命を示し、それを与えます。キリストは天に戻られ、もはや死の力は及ばないからです。

4・6)人間はキリストがゲッセマニで、あるいは十字架上でなされたように、神に向かつて叫び、自分が聖霊の力によつてキリストと同じく神の子であることを証明します。御父が御子の名によつて送られる聖霊は、人間が神の内奥の生命にあずかることを可能にされます。さらにキリストのように子であり、世継ぎである(同4・7参照)ことさえ可能にしてください。神の内奥の生命にあずかる宗教、神の御子の託身に始まる宗教がここにあります。神の深みまで見通す(1コリント2・10)聖霊が、キリストのいけにえの力で私たち全人類をこの神の深みへと導いてくださるのです。(…)

ご公現 キリストに目を向けよう

★「われわれはその星のほのめくを見た。」(マテオ2・2)

東方の博士たちは星のあとを追いました。星は博士たちをエルサレムへと導き、彼らは王宮に来て尋ねます。「お生まれになったユダヤの王はどこにましますか？」その答えは預言者ミカヤの書にあ

4・6)人間はキリストがゲッセマニで、あるいは十字架上でなされたように、神に向かつて叫び、自分が聖霊の力によつてキリストと同じく神の子であることを証明します。御父が御子の名によつて送られる聖霊は、人間が神の内奥の生命にあずかることを可能にされます。さらにキリストのように子であり、世継ぎである(同4・7参照)ことさえ可能にしてください。神の内奥の生命にあずかる宗教、神の御子の託身に始まる宗教がここにあります。神の深みまで見通す(1コリント2・10)聖霊が、キリストのいけにえの力で私たち全人類をこの神の深みへと導いてくださるのです。(…)

博士たちの行為は、信仰の光に照らしてはじめて理解できるものです。実に彼らの信仰は預言者的な特長をそなえ、その行動は大いなる預言となっています。後に自ら「私の国はこの世のものではない。私は真理を証明するために生まれ、そのためにこの世に來た。真理につく者は私の声を聞く」(ヨハネ18・36〜37)と仰せ

りました。「ベトレヘムよ、イスラエルを治める者が、お前から生まれねばならぬ。」(ミカヤ5・1、マテオ2・6参照)そこで博士たちはベトレヘムに向かいます。星は「幼子のいる所の上に止まった。」(マテオ2・9)母の腕に抱かれたこの赤子はとうてい王の子とは思えません

博士たちの行為は、信仰の光に照らしてはじめて理解できるものです。実に彼らの信仰は預言者的な特長をそなえ、その行動は大いなる預言となっています。後に自ら「私の国はこの世のものではない。私は真理を証明するために生まれ、そのためにこの世に來た。真理につく者は私の声を聞く」(ヨハネ18・36〜37)と仰せ

「ナザレトのマリア」(改訂新版) フェデリコ・スアレズ著 ★定価二〇〇〇円 千三〇〇円
歴史学者の目で黙想したマリアの生涯。キリストに倣う最良の方法は聖母に習うこと。マリアほど忠実に御子のイメージを再現した者はいなかったからである。

説教・講話・書簡等の抄記

「祈りと神の現存」 フランシスコ・ルナ著 ★新書版、定価九二七円 千三〇〇円
 祈りは難しそう、どうやって祈ればいいのかよくわからない、と思われたことはありませんか。祈りの秘訣をお教えます。
 ★お申し込み・お問い合わせは精道教育促進協会へ。

「祈りと神の現存」 フランシスコ・ルナ著
 祈りは難しそう、どうやって祈ればいいのかよくわからない、と思われたことはありませんか。祈りの秘訣をお教えます。
 ★お申し込み・お問い合わせは精道教育促進協会へ。

主の洗礼

罪に傷ついた私たちは 生まれ変わるべき

「あなたは私の愛する子である、私はあなたを喜びとする。」
 (マルコ1:11)

兄弟姉妹の皆さん、今日は主の洗礼の祝日、イエズスの公生活の始まりを告げています。

ヨルダン川に永遠の御父の声がひびきます。キリストが救い主であることを告げるその声は歴史の中にこだましています。

それは「天の声」であり、救い主・神としてのキリストを啓示すると同時に、人間への神の愛の新时代が到来したことを示しています。

イエズスは天が開け、聖霊が鳩の姿で自分に下るのをご覧になりました。(マルコ1:10参照)このような神の霊の出現は、大いなる憐れみの始まりを際立たせます。

人祖の罪のあと、天国が閉ざされ、人類と創造主の間に壁ができて以来のことです。今や天国は開かれ、キリストにおける確かな神の愛が約束されました。

あなたは私の子である！ 福音書の断言した通りに、私たちも繰り返したところです。今日はローマ市およびさまざまな国や大陸から集まった41人の子供たちが洗礼を受け、キリストに接ぎ木されました。キリストの死と復活の神秘

に浸った子供たちは、養子として「神の子ら」となります。洗礼の恵みを受けて贖い主に合わせられた子供たち一人ひとりの上に、御父の喜びがどまっています。人間は神に似せて(創世1:26参照)造られました。その姿は罪のため歪んでしまいました。私たちは御子イエズス・キリスト御自身に生命にあずかることによって、神の養子として(ガラツィア4:5参照)「生まれ変わる」よう召されています。これが神のすばらしい計画です。

「あなたは私の子である。」御父の声がヨルダンの川辺にひびき渡りました。それは御父と同じ神である御独り子に向けられた言葉でしたが、全人類のための計画・召命にもなっています。私はこの言葉を世界中の子供たちに向けて叫びたいと思います。洗礼を受けた子供のみならず、いただいた恵みを十分に主に感謝することの出来ない子供たちにも、また希望の招きとして、多くの人々、心から人生の意味を捜し求める人々にもこの言葉を届けたいと願っています。

「愛する皆さん、私たちがいつも神の愛に心を開き続けることができるよう、祝された処女マリアに願いましょう。」

ヨルダン川での出来事よりも早く、ある意味で天国がマリアの心の中に開いたのは、お告げの瞬間においてでした。こうしてマリアは「神の母・愛の母」となりました。聖母が母の優しさで私たちを導き、愛である(イヨハネ4:8参照)御方との生きた出会いを体験させてくださいますように。

(一一九)

聖霊に助けられる教皇職

教会シリーズ 22

(教皇の不謬性が今回のテーマです。教皇様はこの特別なカリスマの行使にあたっての諸条件についてお話しになりました。)

1 ローマ教皇の不謬性は、教会生活でたいへん重要な話題です。そこで、公会議文書をも一度読み返し、この特権の意味と範囲について詳しく述べてみたいと思います。

公会議が主張するのは、ローマ教皇の不謬性は個人的なものである、つまり教皇が不謬であ

るとするのはローマ教会において教皇がペトロの個人的な後継者だからである、ということ。言葉を換えれば、ローマ教皇は現実には教皇座に属する不謬性を享受するばかりではありません。教皇は教導職及び司牧職全般をペトロの代理人として行使するのです。キリスト教最初の千年の間、教皇はたびたびペトロの代理人と呼ばれています。それゆえ教皇職にはイエズス自身が与え、イエズスの名で行使できる、言わばペトロの使命と権威の体現といったものがあります。

しかし、不謬性は個人としてのローマ教皇に与えられるのではなく、教皇が全キリスト信者の師・牧者としての任務を果すにあたってのみ有効であることは明らかです。しかも教皇がその職務を行使するのは、教皇個人に備わる権威によってではなく、「教皇の最高の使徒的権威をもって」、しかも「聖ペトロの体現者としての教皇に約束された神の助けによって」です。それに、不謬性は教皇がどんな状況の下でも使えたり、当てにすることができるような所有物ではありません。「教皇が教皇座から宣言する時」だけ、また信仰上の真理と道徳、及びそれらと密接に関連した教義上の事柄について語る時だけなのです。

不変の教え

啓示の遺産を守る

2

第二バチカン公会議文書によると、不謬の教導権は「信仰と道徳に関する教義」の分野で行使されます。これは信仰の同意を要する、明確にも暗示的にも啓示された諸真理を指すものですが、教会がそれらを預かり、守っています。キリストから教会に委ねられ、使徒たちによって継承されている遺産です。その純粋さと完全さを守らなければ、教会はそれを正しく守ったとは言えません。これらの真理とは、神ご自身とその創造と贖いのみわざ、摂理の計画にそった被造物の身分と運命における、人間とこの世について、また永遠の生命と地上の生命の、真理と善に関する基本的な要請についてです。

混乱・歪曲の淵から絶えず救い出しているのは教会、なかならずローマ教皇の教導権なのです。この点について第一バチカン公会議は、不謬の教導権の対象は、「全教会が守るべき信仰と道徳についての教義」(DS 3074)であると言っています。最近認可された新しい形の信仰宣言(AAS 81,1989:105,106参照)では、神の啓示された真理と、決定的に教えられる真理ではあるが神の啓示によるのではないものとの区別がなされています。後者にも決定的な同意が必要ですが、それでもそれは信仰上の同意ではありません。

3

公会議文書はローマ教皇が不謬の教導権を行使するための条件を挙げています。要約すれば、教皇は「全てのキリスト信者の牧者及び師であるものとして」「信仰と道徳」に関する諸真理を宣言するにあたり、ある真理を定義づけ、なおそれに対する全てのキリスト信者の決定的な同意を求めらなければならない。このような事例が、たとえば聖母の無原罪の御宿りの決定の時見られました。これについて教皇ピオ九世はこう述べています。「この教義は神が啓示されたものであるもので、全ての信者は常に堅く信じなければならぬ。」(DS 2803) また聖母被昇天の決定に際して、教皇ピオ十二世は言いました。「われらの主イエズス・キリストの権威と、使徒ペトロと聖バ

ウロの権威、及び私の権威により：神によって啓示された真理であると宣言し、布告し、定義する。」(DS 3903)

こういう条件の下での「荘厳な」教皇教導職というものがあつたのです。教皇の決定は「教会の承認のゆえではなく、それ自体において」取り消し得ないものです。すなわち、これらの決定が有効であるために司教たちの承認を必要としないということであり、事前の承認も事後の承認もいらぬのです。「それらの決定は、聖ペトロ自身において教皇に約束された聖霊の助けのもとに発言されたものであり、他の人々による承認を全然必要とせず、また他の審判へのどのような上告も許されぬ。」(教会憲章25番)

4

教皇たる者はこの形の教導権を行使できます。事実、行使されましたが、多くの教皇はそうしませんでした。ただ注意していただきたいのは、今見ている公会議文書では「通常の」教導権と「荘厳な」教導権との区別がなされており、永続的で進行中の通常教導権の重要さが強調される一方、いろいろな定義をつけて表される荘厳な教導権の方は、例外的なものであると言つて差し支えないでしょう。

聖霊は教皇を誤謬から守る

教皇座から発する諸決定の不謬性と共に、聖霊の援助によるカリスマがペトロとその後継者に授けられたために、教皇たる者は信仰と道徳に関する事柄について誤ることなく、キリスト信者に大いなる光を投げかけるのです。このカリスマは、例外的な場合のみに限られるのではなく、程度の差こそあれ、教導権行使の全体に渡っています。

5

公会議文書はまた、教皇の荘厳及び通常の教導権の行使にあつた責任の重大さを指摘しています。教皇は、信仰上の一つの真理を定義づけるに先立って、教会の心を探索する必要、いや義務とも言えるものを感じるの、自分の行つた決定が「カトリック信仰の教義を説き、擁護する」(教会憲章25番)ことを明確に認識しているからなのです。

今述べたようなことは、聖母マリアの無原罪の御宿り及び被昇天の決定に先立って行われ、教会全体に渡る広範囲で丹念な意見聴取がありました。ピオ十二世は、被昇天に関する教書「ムニフィチェンティシムス」(1958年)で、この決定をキリスト信者共同体の信仰として認める論述の中でこう言っています。「教会の通常教導権の普遍的承認により、聖母マリアの肉体的被昇天は神に啓示された真理であることを証する確かで強固な論拠が提供された。」(AAS 42(1950):757)

教皇は教義の発展に貢献する

さらに、教えられるべき真理について第二バチカン公会議はこう述べています。「ローマ教皇と司教たちは彼らの義務と事柄の重大さを意識して、この啓示を正しく探求し、適切に告げるために適切な手段を用いて熱心に努力する。」(教会憲章25番) この知恵のしるしは、歴代の教皇とそれを助ける聖座の諸機関が、ペトロの後継者の教導職と統治の任務を果していく上で確認されるようになったものです。

最後に申し上げたいのは、ローマ教皇が教導権を行使することによって、教会の教えの発展に具体的な貢献をしているということ。教皇は(司教団が行う信仰と道徳に関する決定の場合、その長としての役割や、司教団の思考の公証人としての役割)を果すだけでなく、通常教導権の行使でも、自身で行うさまざまな決定の場合でも、もっと個人的な役割も引き受けるのですが、任務を遂行するに当たって、自らも専念すると同時に司祭、神学者、教義の各分野での専門家、それに司牧、霊性、社会生活などの専門家による研究をも激励するのです。このように、教皇はあらゆるレベルにわたつて教会の文化的、道徳的な富を増しています。相談と研究という仕事を組織するに当たつても、教皇はキリストの教会が抱つて建つ「岩」の後継者として登場するのです。

(九三・三・二四)

「教皇様の声」ヨハネ・パウロ二世教皇の説教 書簡、講話等を解説なしにそのまゝ伝える月刊紙 毎月十日発行 定価 一部八十円 送料実費 一年千九百円 送料七百円 千部以上の一括購入なら送料不要

郵便振替 01130-8-72393